

【1】事業構成

綾部市里山交流研修センターの指定管理を基本とし（指定管理料 17,206,740 円）、日本フィランソロピー協会を通じた「株式会社かんぽ生命保険寄付プログラム」（100 万円）による裏山整備事業、綾部市団体事業補助金（250 万円）による綾部里山交流大学事業（協議会形式）も行なった。

【2】綾部市里山交流研修センター指定管理事業

（1）貸館利用

〔1〕一般利用

年間貸館利用人数は計 7,626 人であった。囲碁会、陶芸など定期的な教室をはじめ、多様な用途に活用いただいた。年度末は COVID-19（新型コロナウイルス）流行の影響で利用のキャンセルも多かった。

〔2〕大規模利用

里山交流館（鉄筋本館）、幸喜山荘、森もりホール、バーベキューサイトや芝生広場などの機能を組み合わせ、施設と敷地全体を活かした大規模な利用として、「小さなアースデイ in 里山ねっと・あやべ 2019」（7 月）や、「LIFE～いのち」上映会（10 月）、京都市内の企業の研修会利用（11 月）などがあった。

（2）宿泊利用

年間宿泊者数は延べ 959 人泊であった。スポーツ系団体、文化系団体、学生合宿など多様な宿泊利用があり、宿泊に付随して随時、郷土料理を中心とした食事提供を行ない、鹿肉コロッケを随時まじえるなどジビエも取り入れた。（宿泊・飲食は定款上のその他事業として実施）

（3）交流体験

交流人口の年間合計は 2,775 名であった。

【森林関係】

〔1〕体験教室の開催

7 月「鳥（とんび）の生態学習会」、10 月「チェーンソーの使い方教室」、11 月「チェーンソーアート教室」、12 月「ミニ門松づくり体験」を実施した。

〔2〕「里山暖話」

「京都ストーブ」の山本大輔氏を講師として 12 月～2 月「里山暖話（薪ストーブ講座）」を開催。「良い薪とは何か」「煙突の深い話」「近隣クレームを出さない使い方」「タイプに合った使い方」「薪ストーブ料理」など毎回のテーマを設定し、多くの参加を得た。

〔3〕木と竹の体験活用

木製のカーリング「木～りんぐ」は森もりホールでの体験での定番になり、秋のあやリンピックでも新市民センターを会場として「木～りんぐ」体験を提供した。薪割で出来た薪を活用し石窯パン体験・ピザ体験も実施。里山の竹・松・梅やナンテンなどを活用した門松作り体験も年末に実施し多数の参加があった。

〔4〕綾部里山交流大学での里山学習

「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定された地元の自然を活かし、綾部里山交流大学の講座として「小畑のミツバツツジの尾根歩き」を実施した。

【食育体験】

〔1〕石窯パン体験・ピザ体験

薪を活用した石窯で団体パン体験を随時受け入れ。団体パン体験と「木〜りんぐ」のセットでの利用も増えた。

〔2〕ジビエ体験

里山の現状を考える契機としてのジビエ体験のため、鹿肉コロッケ「シカッケ」を随時、宿泊客に提供および一般販売。「里山ジビエ料理教室」を12月に実施、中丹の鹿肉を活用し、鹿肉入りのピロシキなどを試作。「ふくちやま MEET×MEAT フェス 2019」(10月)で「しか焼き〜」を販売、「地球環境市民の集い」(11月)で鹿肉コロッケを販売したほか、1〜2月に中丹ジビエフェアに参加

【大学連携】

〔1〕合宿の受入や提案

京都大学農学部の調査実習など大学の調査・研修合宿の受け入れを継続。国土交通省の「若者の地方体験交流」を通じて全国の大学に綾部での里山体験合宿プランを広報した。

〔2〕京都府立農業大学校

「ゼロ農」プロジェクトに、農業の専門家の立場から協力いただき、教官からの助言、学生の作業参加など協働いただいた。

〔3〕京都産業大学との協定

京都産業大学と綾部市の協定にもとづき学生実習の受け入れを複数回行なった。水源の里での研修時の宿泊拠点として活用いただいたほか、ゼロ農プロジェクトへの参加や小西での茶香服体験、京産大の学園祭での鹿肉コロッケ販売などで連携した。

〔4〕京都府立大学 COC+

地域で活動し定着する人材を育てる京都府立大学 COC+プログラムで事務局長が「地(知)の案内人」として学生実習を受け入れ。学生は12月の門松教室の運営補助作業などを行なった。

〔5〕五大学インゼミの合宿

8月に福知山公立大学、京都産業大学、島根大学、小樽商科大学、東北公益文科大学による「5大学インターゼミナール合宿(学生政策コンペ)2019」(2泊3日)の会場となった。

〔6〕福知山公立大学「非営利組織論」

福知山公立大学の講義「非営利組織論」の事例研究に事務局長がゲスト講師として参加、特定非営利活動法人里山ねっと・あやべを紹介した。

【公益連携】

〔1〕グンゼとオムロン

グンゼが実施し、京都府や府立林業大学校とも連携しつつ小畑町区が受け入れているモデルフォレスト活動(小畑の山城跡整備)への協力(活動後の調理体験の提供を含む)を継続した。グンゼの4月の新人研修も、モデルフォレスト活動への参加の形で実施された。整備された小畑城跡の活用として小畑町区と「戦国時代の山城「小畑城跡」訪問学習会」を3月に共同企画したが COVID-19(新型コロナウイルス)流行の影響で延期となった。また、オムロン綾部事業所の社員に「ゼロ農」への協力をいただいた。

〔2〕森の京都 DMO

事務局長が「森の京都 DMO」に取締役(理事)として参画を継続。改装された森の京都 DMO の WEB サイトを通じて綾部市里山交流研修センターの紹介や行事予定の掲載など情報発信につなげた。

〔3〕福祉分野

京都府下の少年親子の交流事業として里山体験合宿の受入を継続。中丹支援学校がピザ体験、木〜りんぐ体験、石焼芋体験などで利用いただいた。綾部市社会教育課を通じて市内の高齢者学級の体験受入（石窯パン・BBQ・木〜りんぐなど）に協力し、特に石窯パンと「木〜りんぐ」のセットは定番体験となった。また事務局長があやべボランティア総合センターに運営委員として参画を継続した。

【情報発信】

〔1〕定期刊行物やインターネット

WEBサイトでの情報発信、Facebookによる情報発信、月刊の地元通信「里山ねっと新聞」の発行、毎月第4木曜日のFMいかる本社スタジオ「わくわく里山的生活」への出演を継続。

〔2〕視察や調査対応

廃校活用や里山保全に関する視察を受け入れ（綾部、福知山、丹波市、石川県から）。地元の中学生や高校生の職場訪問にも対応。

〔3〕物品販売

NPOのマスコット「しかっけ」キャラクターや鹿角のグッズ、地元の米や茶のサンプル商品などを事務局や特産館で販売（農林産物等販売は定款上のその他事業として実施）。

〔3〕株式会社かんぼ生命保険寄付事業

〔1〕自販機ガードの製作

職員が伐採した裏山のヒノキ材を材料とし、近隣に立地する京都府森林組合連合会京都木材加工センターに製作を委託して、飲料自販機にかぶせる「自販機ガード」を設置した。

〔2〕山崩れ跡で初歩からはじめる農園「ゼロ農」

京都府立農業大学校や京都産業大学、オムロン株式会社などの協力を得て、赤土で養分のない山崩れ跡の山麓の農園に施肥・耕耘する作業から着手し、野菜苗の定植へと進めた。獣害防止の電気柵も設置した。

〔3〕かぶと虫銀行

裏山のかぶと虫ハウスで育ったかぶと虫の成虫を希望者家族に配布し、かぶと虫が産んだ卵を裏山に戻してもらう取り組みである。3月にもペットボトル入りのかぶと虫幼虫配布を実施。

〔4〕学校茶園

定期的に茶園の草刈や剪定を実施。9月には茶農家の協力を得て油粕肥料を散布して施肥。

〔5〕その他

ウッドデッキの上部、苗木ガーデンと位置付けた一角に色々な苗木を植栽。12月には、研修に訪れた大学生が裏山にクロマツの苗木を定植。トビ（とんび）の巣を観察する野鳥観察会も実施した。薪割を継続し、薪置場に薪を補充した。

〔4〕綾部里山交流大学事業（協議会形式・市団体事業補助金）

受講者数合計は544名（うち綾部分356名、都市圏分188名）であった。昨年度同様、コーディネーターおよび綾部の田舎暮らし実践者で企画立案チームを作ることにより、オープンライフのキーワードに象徴される、実践的な講座を継続した。交流大学WEBページもリニューアルした。

〔1〕綾部での実施

綾部では、気候変動問題、自然の中での子育て、イギリスのシューマッハ・カレッジ、グラフィック・ファシリテーションなどの学習会を通じて、持続可能な地域づくりにつながるオルタナティ

ブな智慧の体系を綾部に紹介した。

[2] 都市圏での実施

都市圏では、京都の京町家ヒノコを拠点とした講座開催や、「みんなの尼崎大学学祭実行委員会」と連携した複数のローカル大学の交流、里山フォーラムを前身とする「ささやまミーティング」への参加を通じて、持続可能な生活の場としての綾部の情報発信を図った。